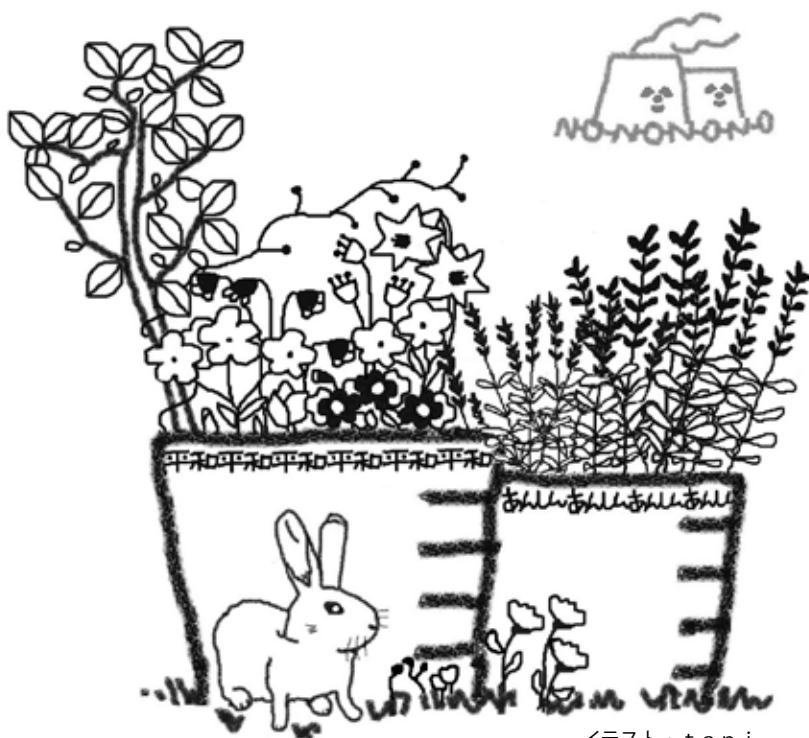


市民活動

のひろば

〔特集〕

3・11から12年 福島原発事故を 繰り返さない



イラスト・tani

2 〈特集〉

- 女川原発の再稼働を許さない！みやぎアクション「女川原発の再稼働阻止！一稼働差止裁判判決は5月24日」
- 後志・原発とエネルギーを考える会「核ゴミ、原発再稼働、車拡に抗すー私たちは歴史から何を学んできたのか」
- 脱原発をめざす首長会議「住民の命・暮らしを守る責務ー自治体政策として「脱原発社会」をめざす」
- 反原発西武線沿線連合「西武線沿線で声を上げ続けるーデモで市民の反原発と連帯を確認しながら」
- 原子力資料情報室「原子力政策を決めるのはだれ？ーいまだ「原子力緊急事態宣言」発令中！」
- 「市民活動のひろば」震災、原発、エネルギー関連特集のバックナンバー一覧

15 〈おたよりありがとう〉

16 〈さんきゅうはうすから④〉神馬幸悦

17 〈オットケドゥンテルコヤ⑨〉松尾有美「韓国社会と女性」

18 〈不登校一子どもサイドから⑩〉内田良子「不登校の現在地」

20 〈映画欄 147〉シバタメイコ「劇場版 センキョナンデス」

22 〈ノリちゃんの虫がね 66〉ジュウジチビシギゾウムシ「エゴシギちゃんの実ミニチュア版」

〈発行委員会からのお知らせ〉〈まどべ〉〈発行カンパ・新規・継続ありがとう〉別冊〈情報編〉

西武線沿線で声を上げ続ける

―デモで市民の反原発と連帯を確認しながら―

反原発西武線沿線連合(反西連)

「日本の原発がこんな悲惨な事故が起こすとは……」

「なんとかして、原発をなくしていきたい」
そんな思いを胸にそれぞれの地域で「原発はいらない」の声を上げていた市民たち。

2012年9月25日午後7時、練馬・江古田にある「四文屋」という居酒屋に西武線沿線の各地で脱原発を訴えている約10人の市民たちが集まりました。思想信条もさまざま、お互い初めて会う人も多いこの集まりでしたが、脱原発の思いはみないっしょ。

「せっかく西武線沿線の原発反対の人たちが集まっているし、横のネットワークを作って、みんなで脱原発運動を盛り上げていきましょう」

その場の全員が即座に意気投合。こうして「反原発西武線沿線連合(反西連)」は産声を上げました。

翌日には、イラストの得意な人が「こんなのおお?」と、「反西連」のキャラクターを提

案。それが今も「反西連」のシンボルになっている「脱原発ネコのロージー」です。

この「脱原発ネコのロージー」は、当時、「ウォール街を占拠せよ」運動などで用いられていた「Rosie the Riveter (リベット工のロージー)」という女性労働者のアイコンがモチーフになっています。ただ「反西連」のロージーは、ネコなので「ネコ缶工のロージー」なんですけどね(笑)。



反西連の脱原発行動はここから始まった(12年10月)

■ 原発反対の声を西武線全ての駅頭で

そして、西武池袋線の大泉学園駅での街頭宣伝が最初の行動として決まりました。この街宣では、たまたま駅前を通りかかったという、カリフォルニアで反原発運動を行なっているという女性が飛び入りで参加するなど、図らずも脱原発運動の国際的な広がりを身をもって感じる場となりました。

(そういえば、次に紹介する「高田馬場デモ」では、早稲田通りに事務所を構える韓国メディアの記者の方が脱原発を求めるデモの声を聞きつけ、慌てて駆け降りてきてデモの取材をするということもありました。その記者の方は韓国でも反原発運動が盛り上がっていることを教えてくれました)。

翌13年1月には、数百名の参加者を集めて、「第1回高田馬場☆ニューイヤ―脱原発デモ!」を開催しました。このデモは、この年以降毎年、お正月恒例のデモとして行われていくこととなります。このデモでは、事前にデモコースである早稲田通り商店街の一軒一軒にご挨拶をするというのが「伝統」になっています。これが私たちの「高田馬場デモ」に対して地域の方が温かい目を向けてくれる理由の一つにもなっています。

さらにこの年の4月には、西武線のすべて

の駅頭で脱原発を訴える「反原発西武線100☆駅アクション」も行いました。このときは「この駅ができて初めて社会問題での駅頭宣伝が行われました。感慨深いです」という住民からの感想もありました。

■「原発のない日本」という甘い期待…

「反西連」はこういった街頭行動のほかに、脱原発運動にとって重要な問題が起こると、その都度「声明」を発表したり、学習会や講演会なども開催したりしてきました。

これらの行動が、全国の脱原発運動の一つとして、多くの市民たちの気持ちを揺り動かす、あの安倍政権ですら、やすやすとは原発再稼働を決められない社会情勢を作る一助になったのではないかと思っています。

ただ、私たちはここ数年の間、もしかすると「すべての原発の廃炉はすぐには実現できないかもしれないけど、このままいけば、いずれば原発のない日本が実現するんじゃないかな。他にも憲法改悪や安保法制の問題などいろいろ取り組まなくちゃならないこともあるし」というある種の希望も混じった思いによって、脱原発の行動を脇に置く形で過ごしてきた部分はあったかもしれない。そして原発事故後も虎視眈々と原発復活を狙い続けてきた「原子力村」の執念と底力を

軽視し、タ力をくくっていたのかもしれない。もちろん私たちは今でも各地で定期的な活動を行なっています。しかし11年から15年にかけての「何が何でも」という熱気は徐々に失われてきているのが現状とは言えるでしょう。

■コロナ禍でも声を出し続ける！

そしてさらに20年以降は「コロナ禍」が市民運動の現場をも直撃しました。

「反西連」でも、一昨年と昨年の「ニューヨーク脱原発デモ」は中止とせざるを得ませんでした。

しかし、デモ中止を決める打ち合わせでは、「なんとかして脱原発の声を上げることできないかな」という声が上がりが、街頭でのデモの代わりにツイッター上での「脱原発デモ」を行うことを決めました。「ツイッターデモ」は、呼びかけられた時刻に、多くの人があるテーマで一斉にツイートし、あたかもデモ行進のようにアピールする取り組みです。

私たちの思いは「solidarity together at home」(お家で連帯しよう)。

マスクをした「ロージ」たちがそれぞれの家から脱原発の声を上げるツイッター用ポスターを作って、デモは行われました。こ

の「脱原発ツイッターデモ」は東京周辺だけでなく、日本各地から多くの方が参加するデモになりました。

コロナ禍で街頭デモができなくても脱原発の声を上げることを諦めない、その思いが、私たちがただけのもではなかったことがよくわかるツイッターデモでした。

■政権の暴走を許さない

そして昨年の22年、岸田政権はこれまでの政府方針をいきなり投げ捨て、突如として、原発の再稼働、原発の新増設などを閣議決定し、原発回帰へと大きく舵を切りました。

こうした政権の姿を目の当たりにして、私たちは「高田馬場☆ニューヨーク脱原発デモ」を再び行うことを決定。そして23年1月15日、3年ぶりとなる街頭デモを行いました。

コロナ禍がまだまだ収束していないこともあって、参加者は100人ほどでしたが、西武線

#ニューイヤー 原発事故から10年 マスクをしてでも声をあげよう！
脱原発 ツイッターデモ **いっしょに脱原発★**
2021年 1月10日(日) 19:00~22:00 #ニューイヤー脱原発ツイッターデモ #脱原発 #反西連
をつけて、「原発いらない！」の思いをみんなでツイート！
タイムラインでデモの陣列を撮ろう！



Solidarity! Together at home!

うさぎ年 原発ゼロ跳躍の年へ



15日、東京都新宿区で高田政雄（ニューイヤードモ）が主催する反原発デモは、90人が参加しました。うさぎ年を原発ゼロに躍進する年にしようというテーマで行いました。

反西連がデモ行進

東京・新宿 武蔵道の沿住住民など
が主催する反原発西連は、
東京・新宿を走る西 沿道連合（反西連）は

吉良氏参加

1月15日の「ニューイヤードモ」を報じる

各地の脱原発を訴える市民たちのみならず、官邸前や国会前での脱原発の抗議行動を主催していたメンバー、世界的な環境保護団体の方、国会議員や地方議員の方など、多士済々の人びとも参加してとても中身の濃いデモとなりました。

そしてこの久しぶりのリアルデモは、私たち「反西連」が多くの市民たちと協力しながら「原発のない日本」を目指しつづけること

を再確認する場でもありました。

岸田政権は「原発推進」をこり押ししようとしています。私たちは、この岸田政権の暴走を止めるために皆さんと手を携えて今後も活動していきます。（文責：安藤直樹）

【連絡先】ツイッターアカウント@SCANJP
<http://hansairen.net>



「市民活動のひろば」バックナンバー

震災、原発、エネルギー関連特集一覧

それぞれ3~6団体・個人の活動報告を掲載しています。1部150円+送料でお送りします（最新号以外は情報欄は入りません）。

号数	発行年月日	特集タイトル
25	2004.11.1	今こそ、ヤメどき！ 原子力発電
90	2011.5.1	東北関東大震災 一いま私たちにできること
91	2011.6.1	今こそ、ヤメどき！ 原子力発電 vol. 2
92	2011.7.20	3・11 大震災と私たち 一被災現場と関わる／原発をやめる一
93	2011.9.1	放射能汚染から子どもを守る
94	2011.10.1	3・11 あの時・現在・これから
112	2013.7.15	本当に必要？ 新たな「自然」エネルギー
104	2012.10.1	放射能を測る
115	2013.11.1	地域から広げる「原発やめる！」
138	2016.3.1	福島第一原発事故から5年 私たちの現状とたたかい
141	2016.6.1	熊本大地震 一いま、何をすべきか
148	2017.3.1	福島原発事故から6年 一健康に生きる権利を子どもたちに
159	2018.4.1	震災の記憶をのこす・伝える
178	2020.3.1	3・11 から9年 福島から現在の思い
188	2021.3.1	東日本大震災・福島第一原発事故 3・11 から10年
198	2022.3.1	福島第一原発事故から11年 続く緊急事態

「市民活動のひろば」発行委員会：〒189-0012 東村山市萩山町 2-6-10-1F tel:fax:042-396-2430

E-mail:hiroba2002@a-simin.sakura.ne.jp <http://a-simin.com/hiroba/>

定期購読で発行を支えてください！：1年読者(10回分) 2500円 / 2年読者(20回分) 4900円 / カンパ大歓迎

郵便振替口座「市民活動のひろば」発行委員会 00150-6-258984 / ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキュー)店 当座 0258984